長期療養患者の体組成に関する調査

医療法人社団　生和会　周南リハビリテーション病院
伊藤　由美子　徳原　里衣　石田　英稔　黒沼　慎太郎　小野　一直

【目的】
高齢者は成人と比較して骨格筋減少が顕著になるといわれている。また体水分量、特に細胞内水分が減少するとの報告を散見する。当院医療療養病棟にも低体重の患者が多く入棟しており、体組成の現状を把握する必要があると考えた。
【対象】
2019 年 11 月 1 日時点で当院医療療養病棟に入棟していた 84 名のうち、65 歳以上で、主疾患の発症から 1 年以上経過しており、体成分分析装置の測定が可能であった 33 名。
【方法】
＜調査 1＞対象者を性別（男性、女性)、年齢（65～74 歳、75～84 歳、85 歳以上）で 6 群に分類。①身長、②体重、③全身筋肉量について各群の平均値と谷本らによる大規模調査の結果を比較。
＜調査 2＞対象者の④体水分量の割合、⑤細胞外水分比を調査。
【測定方法】
11 月 1 日～15 日の午前中に測定。体成分分析装置（InBody S10）を使用し、測定姿位は背臥位とした。
【結果】
①男性では 3 群全て、女性では 85 歳以上で当院の方が身長は高かった。
②85 歳以上の男性以外は当院の方が体重は軽かった。
③全群で当院の方が全身筋肉量は少なかった。
④77.8%の対象者で体水分量の割合は 55%未満だった。
⑤全員が 0.4 以上だった。
【考察】
健常人を対象とした調査を比較対象にしたこともあり、当院医療療養病棟へ入棟している患者は体重、全身筋肉量が低下していた。先行研究では、疾患に罹患した慢性期後期高齢者は低栄養に陥りやすく、もとの疾病による身体および精神的な障害に活動性の低下や制限も加わり、体重の減少を起こし、骨格筋量が低下するとある。そのため、調査 1 だけで特定は困難だが、長期療養による活動性低下、低栄養も原因ではないかと考えられた。また、高齢者は体水分量の割合が 55%程度に低下すると言われている。調査 2 では 77.8%の対象者が 55%未満になっており、筋肉量低下により細胞内水分が減少し相対的に細胞外水分比が高くなっている状態と考えられた。